

「礼拝」とは何か

「礼拝」が私どもクリスチャンにとって、その生活の中心であることは言うまでもない。ではその「礼拝」とは何か、改めて（新約）聖書に聴いてみたい。

まず驚くことに、聖書には「礼拝」と言っても誰かがすぐに思い浮かべるだろう、教会で行われるようないわゆる「礼拝」を指す例は殆ど無い。せいぜい使徒言行録 13 章 2 節に「彼らが主を礼拝していると」とある一例ぐらいである。この時アンティオキア教会の「彼ら」は、この「礼拝」の中で「断食して祈り」、バルナバとサウロを（伝道へと）「出発させた」。ここに用いられている [レイトゥルゲオー] という語は、もともと「公共に奉仕する」の意で、転じて宗教儀式としての「礼拝する」にも用いられた。その用例は派生語を加えても 15 回ほどしかない。なお英語の *liturgy*（礼拝式、典礼式文）は、この語を語源とする。

聖書の中で「礼拝する」に最も多く使われている語は [プロスキュネオー] で、その用例は 59 回に上る。その語根（プロス＝向かって、キュネオー＝接吻する）が示すように、「（神または超自然的存在に対して）平伏して敬意を表する」の意で、福音書と黙示録に多く用いられている。どこまでも礼拝の対象が主要な関心事で、「いわゆる“主日礼拝”やその他の礼拝儀式とは関わりがない。」（織田昭『新約聖書ギリシア語小辞典』）

この語の典型的用例は、何と言っても次のイエスの言葉だろう。「あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。…まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのよう

に礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」（ヨハネ4：21～24、「で」と「もって」は同じ前置詞[エン]）「霊をもって」とは、いつ、どこで、どのようにして、などは一切問題でなく、「神の霊が自分たちの内に住んでいることを知って」（1コリ3：16）、畏れをもって大胆に、「真理をもって」とは、「キリストがわたしの内に生きておられる」（ガラテヤ2：20）という私どもの生の現実（[アレータイア] reality（スーター『ギリシア語小辞典』））のただ中において、「今」すなわち常時、神を礼拝するのである。まことに、「キリスト者の行なう礼拝とはその全生活で四六時中行なうものであり、定められた形の礼拝式ではなく、生ける神を相手として生きる全生活である。」（織田・前掲書）

このイエスの言葉に見事に対応するのが、次のパウロの言葉だろう。「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」（ローマ12：1）

ここで、私どもクリスチャンの「なすべき礼拝」とされているのは、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げる」ことだと言う。そしてこのことを言うのに、パウロはすべてレビ記の「祭儀」の言葉に依っているのだが、彼はそうすることによって、かえってここに徹底的な「非祭儀化」を敢行しているのである。「いけにえ」は死せる、肉のそれではなく、聖なる生ける霊の「いけにえ」であり、他の何ものでもない「自分の体」を神に「献げる」のである。

「自分の体を神に献げる」とは、「神に仕える」ということであろう。ここに用いられている「礼拝」の語は[ラトレイア]で、「仕える」を原意とし、動詞形はそのように訳されることが多い。名詞形・動詞形合わせて36回程用いられている。英語では、「礼拝（式）」をよく service とも言う。

新約聖書中「礼拝（する）」に当たる語は、以上の3つである。

かくして「礼拝」は、決して人を宗教的陶醉に誘う荘厳な儀式でもなければ、人を信仰的熱狂に駆り立てる非日常的な祭りでもない。だからこそ、パウロは「これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」と言ったのである。この「なすべき」と訳された〔ロギコス〕は、「道理にかなった、合理的な、理性的な」という意味の語で、〔ロギケー・ラトレイア〕こそは「キリスト信仰者にとって筋の通った礼拝」（織田・前掲書）であり、それゆえにこそ真に「霊的な礼拝」（口語訳）である。

因に、この「礼拝」理解こそ、内村鑑三の言う「無教会主義のキリスト教」（英文「霊と形」）の神髄であると思う。終生この「礼拝」に生きた内村は、自分の日曜日その他の集会を「礼拝」と呼ぶことはなかったし、（こんにち余りにも当り前になっている）「礼拝を守る」とか「礼拝に行く」とか、という言い方をすることもなかった。

（2013年7月記）

昨年秋、私は浜松聖書集會にお招きいただいて、日曜集會の聖書講話を担当しました。この拙文は、その話の中の一つの論点を紙幅に合わせてまとめたものです。

（所載）浜松聖書集會『みぎわ』53

2013年10月